

「いちかわTMO卒業生生活動報告」

Up Cycle Worksの開設へ



～地球は先祖から譲り受けたものではない。

子孫から借りているものだ～

2023年7月

三浦栄治

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



自己紹介

略歴

昭和38年4月29日生まれ 横浜出身

大学にて証券市場論を専攻→資産運用業界へ就職

M&A等の投資銀行業務及び企業ブランディングに従事

また、ESG/SDGsに取り組む企業を中心とする、株式運用ファンドの組成に参画

退任後、2023年4月よりUp Cycle Worksを屋号として活動を開始

※じゅんかんパートナー：市川市廃棄物減量等推進員

※市川市地球温暖化対策推進協議会 会員



ファンドの運用で感じたこと

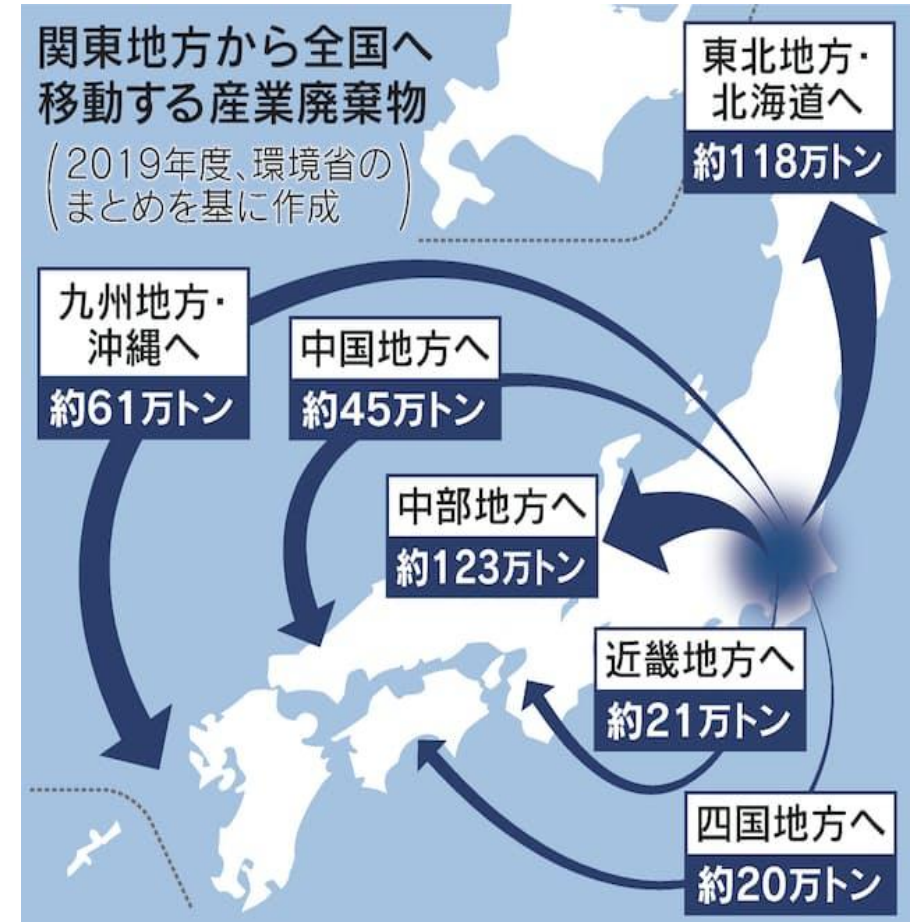
世界的にもこの数年でESG、SDGsへの意識が急速に高まっている。地球温暖化、環境破壊、紛争、差別、貧困などの問題解決が企業活動にも求められている。 → 個人の範囲では何が出来るだろう？

切実な環境問題

ごみ大移動、処分場探す387万トン 首都圏は数年で満杯
日経2022年4月23日 要約

産業廃棄物が処分場を求めて日本列島を移動している。
2019年度に1都6県で出た産廃のうち約387万トンが関東地方を離れ、北海道から沖縄までの各地で処分された。

環境省の推計では、山梨県を含む首都圏の処分場は20年代後半にも満杯になる。処分場の新設数が減少の一途をたどる中、産廃とどう向き合うか。日本は切迫した課題に直面している。環境省によると、19年度に関東地方で発生した産廃は約1億トン。このうち約387万トンが関東地方の外へ運ばれて処分され、その量は増加傾向が続く。脱水や焼却、リサイクルなどの中間処理を経てなお処分できない約85万トン分が最終処分場に埋め立てられた。輸送コストなども考慮し、産廃はできる限り発生場所の近郊で処分されるのが一般的だ。だが、首都圏では最終処分場の埋却容量が限界に近づいている。**環境省は19年時点で、首都圏の最終処分場が残り6年半で埋め尽くされると推計した。**



ゴミ（粗大ごみ・生ごみ）を減らそう！

「Up Cycle Works」を開設

現在の「3つのR」から「3つのR+R」へ

Reduce（リデュース）：「廃棄物の発生抑制」

Reuse（リユース）：「再利用、または使わない人から使う人へ」

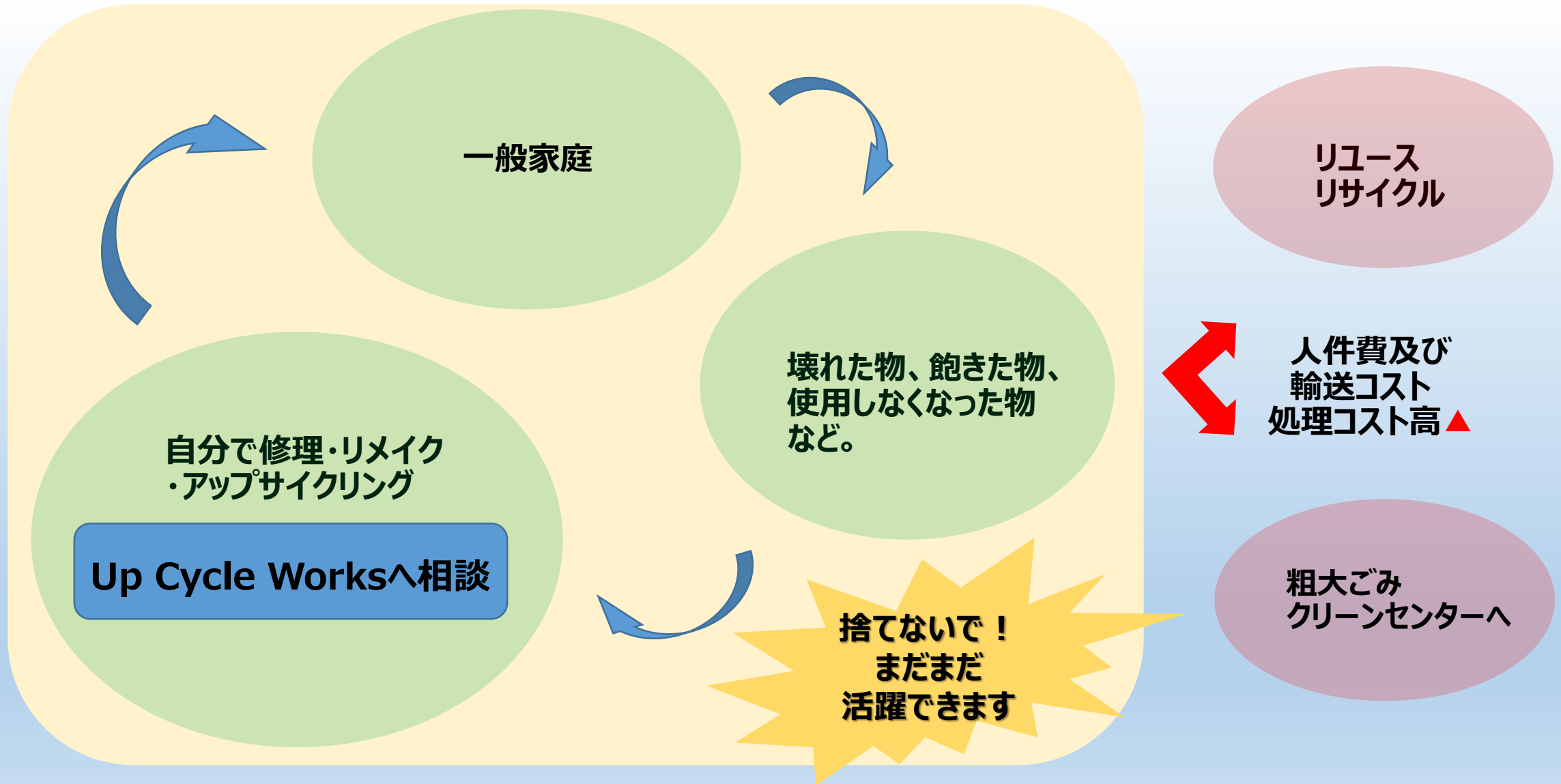
Recycle（リサイクル）：「再生利用、新たな生産物へ」

+ Repair（リペア） 「壊れたものを使えるものへ」

※アップサイクリング：廃棄物、役に立たない不要な製品を、より良い品質、または製品にアップグレードして役立てること。



物を大切にして、粗大ごみを出さないライフスタイルの提案



Repair (リペア) アップサイクリング

昔に戻ろう。自分で直して
少し面倒な生活へ



粗大ゴミにせず、直して使う。
廃材などを使い物を作る。

作業所にて工具の使い方、
簡単な修理の指導など、直
すためのアドバイスを行う。



作業実例 1 (2時間)

新しいもの買う前に
リメイクしてみよう。

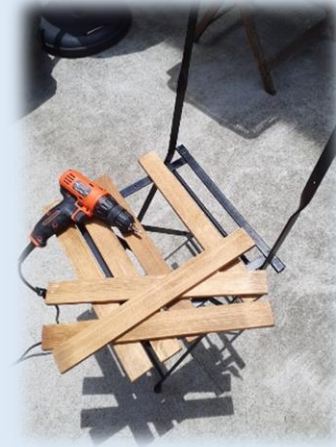


捨ててあつた椅子を
拾ってきました。

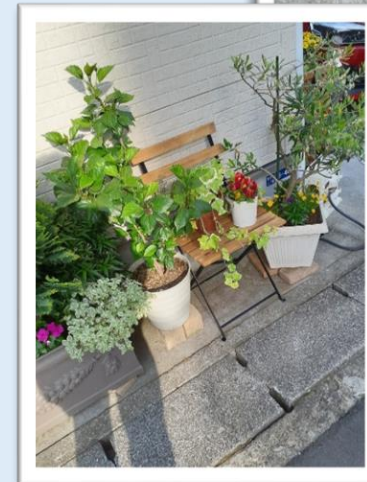
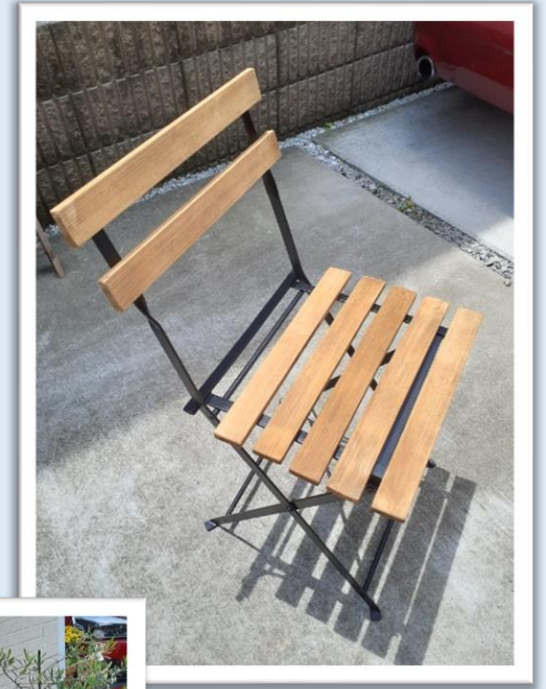


頑張って、
直してみよう。

木を外して、
塗装をし直し
て...



木材 (¥800)
も切断後、表面塗装
して...張り直し。



蘇りました。
お洒落に
ガーデニン
グに使いま
した!

作業実例2 (1~2時間)

新しいもの買う前に
リメイクしてみよう。



ステンシルで
ちょっとお洒落し
てみました。

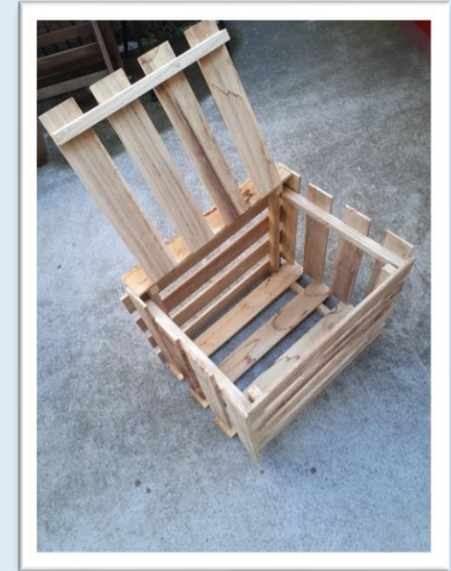
これも結構、
表面がすすけ
てきてます…

まずは表面を
削って…
塗装して…
(塗料¥500)



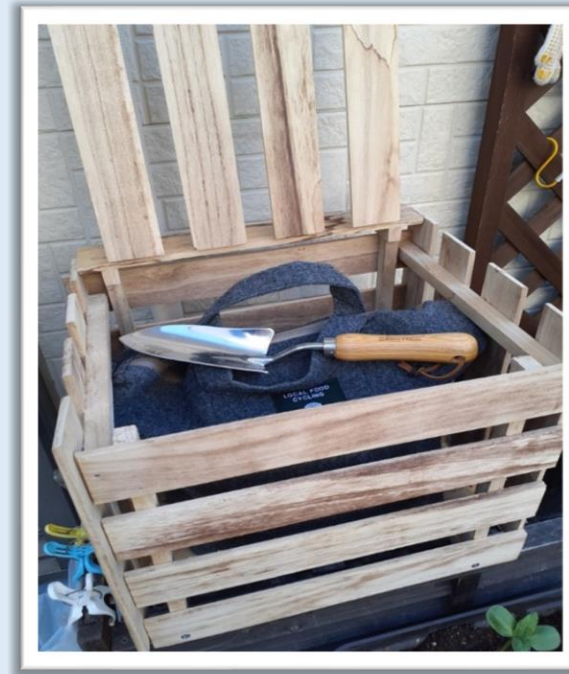
処分するとい
うのもらっ
てきた、すのこ。

電動ノコで裁
断し、箱型に
再生。(接
着剤、釘、蝶
番 500円)



お洒落なコン
ポスト入れが
出来ました。

布製のコンポ
ストは風通し
が必要なので
バッチリ！



アップサイクリング

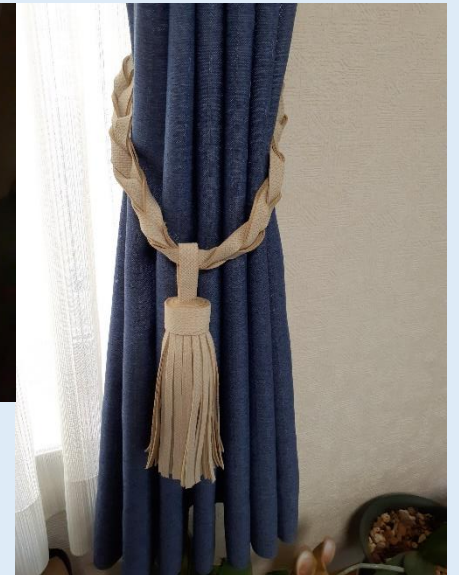
廃材利用のスマホスピーカーは電源要らずのエコグッズ。



廃材ビール瓶を利用したスパイス・オイルボトル。繰り返し使えるシンプルなエコグッズ



革ハギレを利用したカーテンタッセル。部屋の雰囲気かわります。



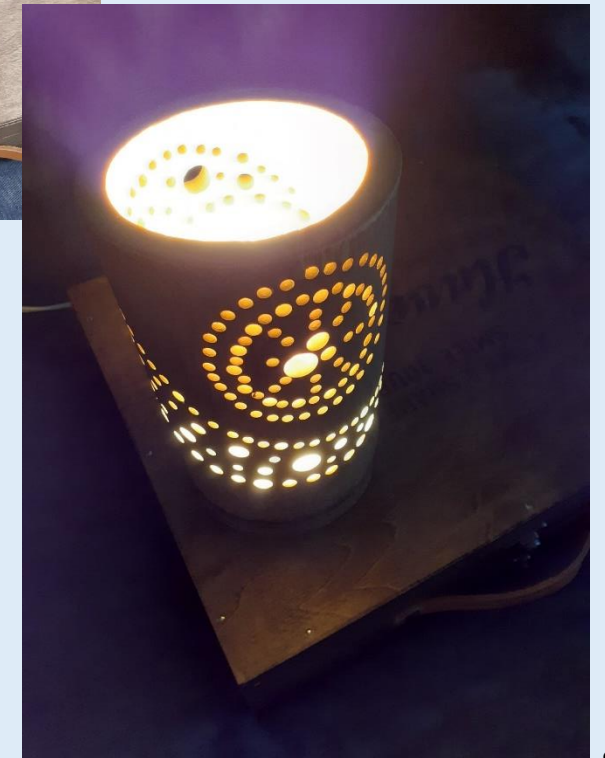
アップサイクリング



ワインボトルを利用したランプ・・・
雰囲気あるんです。



廃材を利用し、
竹をくり抜いた
ランプ。

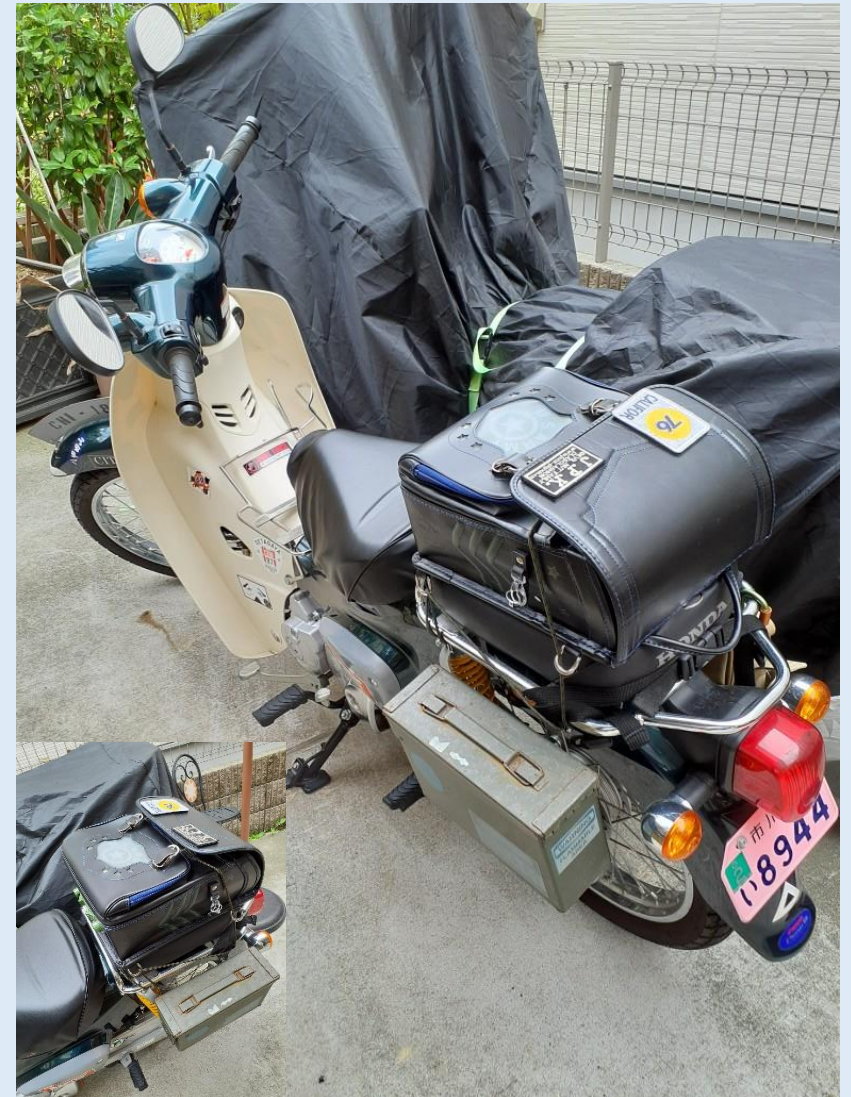


アップサイクリング



ワインボトルのヘッドを利用したベル・・・良い音色です。

廃棄処分のランドセルを利用したバック。なかなか丈夫でワイルドです。



アップサイクリング



瓶ビールの底を切り取り、お洒落な壁掛けの鉢植えを作りました。
底部はスポンジを詰めています。



情報発信 行政との連携 =現状認識=

市川市だけではなく、日本、世界の環境問題についての情報を共有

生ゴミ削減の成功例の共有や、ゴミ分別の理解を深め、ゴミを減らす輪を広げる



町田市バイオエネルギーセンター
建設工事の様子

【ごみの減量・資源化にご協力ください！】

1人1日 あたりの 総ごみ量	2020年度	2030年度 目標
	776g (前年度比+8g)	714g

多摩市の1人1日あたりの総ごみ量 (2019年度)

1位 (北多摩市)	619.4g
11位 (町田市)	755.3g
12位 (多摩市)	764.2g
13位 (東横市)	787.9g

目標まであと 62g 減量!

※1日あたり1kg以内のごみを出すと、2019年度まで4kg(1週間)削減することを目指しています。

※2019年度からの1人1日あたりの総ごみ量は増加傾向が続いています。

※このままでは、町田市のゴミ処理施設に十分な容量が確保できず、ごみ処理しきれなくなっています。

※この減量には小さくてもごみの分別が重要です。積極的に協力をお願いします。

※おかけください

- ごみを出す際には、十分に水切り
- 食品は新聞紙などで包み込んで分別して削減
- 資源としてごみの分別

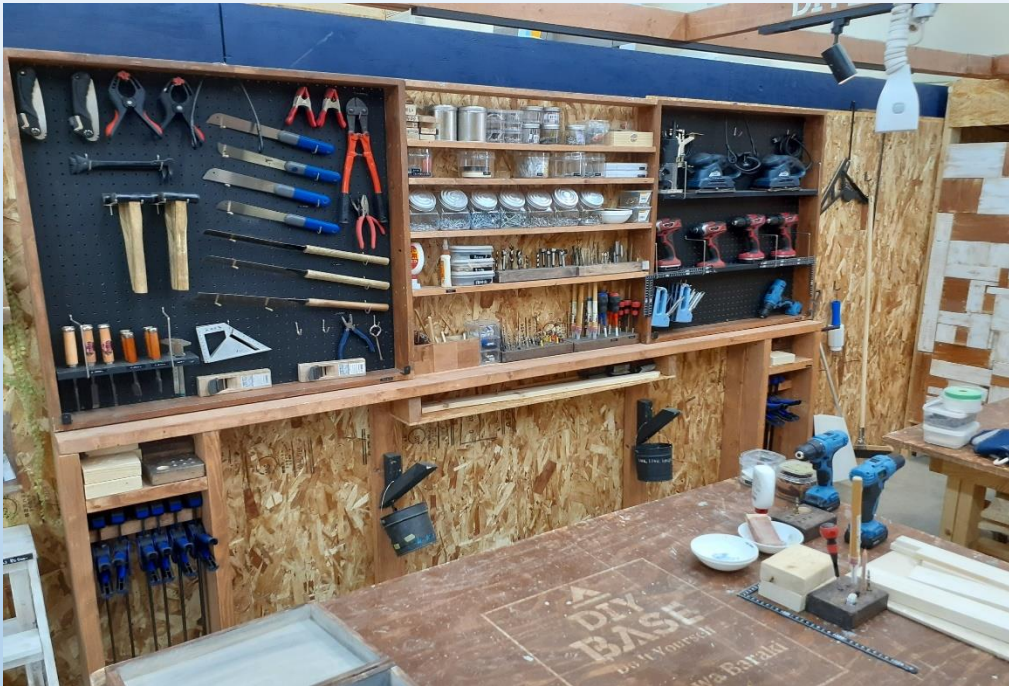
ご参考：
町田市の情報発信



「Up Cycle Works」開設準備中

※作業店舗の模索、選定中

必要な設備（作業場、工具）



マーケティング

地元メディア、SNS、YouTube配信など

事業の継続性

収入

作業指導、工具の貸与代金

1時間 500円～

家具などの修理、リペア、リメイク販売

コンポスト等販売（助成金の活用）

支出

①人件費 当分なし

②店舗家賃、光熱費

③その他

目標：物の贅沢から心の贅沢へ

ゴミ（粗大ごみ・生ごみ）を減らそう！アップサイクリングのススメ

- 民間：物を大切に長く使うことで、不用品としての廃棄物が減少すること
 - ：アップサイクリングにより市民生活のコストが下がること
 - ：市民が主体的に取り組むことにより、環境問題に対する理解が一層深まること
- 行政：ゴミ回収・処理の量を削減できること
 - ：行政、清掃事業に対する市民の理解が深まること

※ステークホルダー

市民

行政：市役所 企画部、環境部、市川市清掃公社など

最後に

市長の取り組む施策（7つの基本政策）

環境

4つ目は、「環境」についてです。

地球温暖化の進行により、気候変動の危機は深刻さを増し、そのための対策は待ったなしです。今 すぐ行動を起こさなければ、私たちの地球は取り返しのつかないことになってしまいます。

環境問題には、様々な要因が複雑にかかわっています。しかし重要な視点は自然の摂理を理解し、循環とバランスを保つことです。一人ひとりの生き方が地球環境につながっていることを意識し、資源やエネルギーを循環させ、バランスよく環境を保つことができるよう啓蒙してまいります。

そのうえで、**ごみの問題について一人ひとりが当事者意識を持って向かい合えるような取り組みを進める**とともに、グリーンセンターの建て替えにあたっては費用と機能を見極めた計画といたします。

そして、市川市として持続可能な地球環境や社会に向けて取り組む責務を果たすため、できることから行動を起こしていかなければなりません。

本市はSDGsを推進する都市として、環境にやさしいまちづくり、いつまでも住み続けられるまちづくりを、市民の皆様とともに進めてまいります。